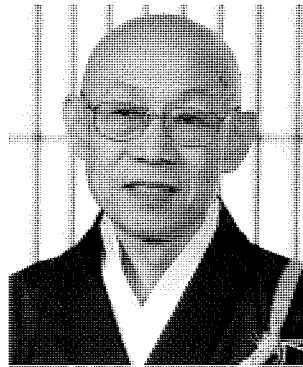


記念講演

# 菩薩の心とロータリー



© 高野晃輔

きたかわら こうけい  
北河原 公敬 氏

昭和 18 年 5 月 9 日 生まれ 74 歳

● 略歴

昭和 37 年 3 月 学習院高等科卒業

昭和 43 年 3 月 龍谷大学大学院(国史学)修士課程修了

昭和 62 年 4 月 東大寺塔頭中性院住職

華嚴宗宗務長・東大寺執事長、東大寺学園理事長などを経て、

平成 22 年 5 月 華嚴宗管長・第220世東大寺別当

平成 25 年 5 月 東大寺長老、東大寺総合文化センター総長

平成 28 年 5 月 東大寺長老、東大寺学園理事長

● その他の役職

印度山日本寺竺主、

公益財団法人大和文華館理事、

関西桜友会会長、

日本ホッケーリーグ機構会長など

● 著書

画集『修二会の風景』/ 版画：浦田周社、文：北河原公敬 / 発行(株)レベル / 平成 23 年 3 月

『CDブック ころの法話⑧ 東大寺・北河原公敬』/ 発行：朝日新聞出版 / 平成 23 年 6 月

『蓮は泥の中で育ちながら泥に染まらない』/ 発行：講談社 / 平成 24 年 2 月

DVD『いのちを語る第10巻 北河原公敬(東大寺)×さだまさし』/ 発行：ユーキャン、取扱：大仏奉賛会

● ロータリー歴

88年奈良大宮RC入会、国際ロータリー第2650地区2014-15年度ガバナー、  
地区東日本災害復興支援特別副委員長、MPHFベネファクター、米山功労者(8)

東日本の大震災から6年半余が経ちました。震災から私たちは自然の猛威を思い知らされました。人間が自然を管理し、支配できるという近代西欧思想の限界を見せつけられたのではないのでしょうか。このことから、時代は変わったのだということ私たちは認識する必要があります。

科学技術に基づいた暮らしの中では、計算された出来事以上のことは起きないとされ、想定外のことはないも同然という思い込みの中で生きていくことができますが、しかしそれは単なるおとぎ話で、自然は常に人間の予測を超えた展開をします。そのことを肝に銘じなくてはなりません。

いままで通りに生きることや、それまでの好き勝手な生活、あるいは満たされた生活を送ることは、将来次第に難しくなっていくのではないのでしょうか。

いま手に入るものをありがたくいただく。授かった恵みを受け入れる気持ち。いただけることの幸せ。そのことのありがたさに思いを致す。そういう思いや道徳心を持ちつつ未来を切り拓く日本人が必要な時代になってきたように感じます。

さて、東大寺は華嚴宗を標榜しております。所依の經典は『華嚴經』というお経です。『華嚴經』では、具体的な事物や事象、そして時間に関しても、個々のものを決して孤立した実体的な存在とは捉えられません。あらゆる存在は、他のすべて、ないし全体と限りなく関わりあい、通じあい、働きあい、含みあっているとされています。このような関係性は、私たちの生きる社会についてもいえます。

例えば、いま自分のおかかっている親族関係です。いまここに自分が生を受けたということは、両親がいたわけですね。その両親にもまた両親がいて、さらに両親がいて・・・と延々とさかのぼることができます。親族図を思い描いてみればより分かりやすくなります。自分を中心にした場合、その左右に無限に枝葉が広がってゆくさまがみてとれます。しかも、それぞれの一对の男女が出会うまでも、どれだけの人の関わりとつながりがあったのかを思うと、天文学的な数字になるでしょう。

ここにこうして自分が生きてこられたのは、数え切れない膨大な人との関わりの中で、絶えることなく続いてきた流れがあったからです。自分の知り得るもの以外のおかげによって(自然界も含め)、自分は生きている。こうなると生きているというよりは、生かされているといった方が適切でしょう。

この事実を悟ったとき、自らを生かしている他者への感謝の念が生じてくるのではないのでしょうか。そこに他者への心配りや、気遣い、そして他者の幸せを願ったり、その幸せは自らの喜びと感じたりすることへもつながるのではないのでしょうか。

近年、他者を思いやる、他者に手を差し伸べるといった心が薄くなってきているようです。他者を慮る心が欠けてきているように感じます。

いうまでもなく、阪神淡路大震災や東日本大震災の際には、多数のボランティアが被災地へ駆けつけ、見ず知らずの困難な状況にある人々に手を差し伸べ支援をされました。いざというときには、他者を気遣ったり、手を差し伸べたりすることができるのに、平素においてはあまり見受けられないというのはとても残念です。

このような現状を思うとき、大乘仏教の「菩薩の心」が重要となります。菩薩は大慈悲心でもって他者のためにはたります。他者のために役立つ行為、他者を思いやる行い、施しをいたします。これを布施といいます。これは見返りを期待するものではありません。まさにロータリーの活動に通じます。

「菩薩の心」を学ぶために、特に「布施行」が強調されます。布施行には、金品などの要らない誰にでもできる「無財の七施」があります。

眼施・和顔施・言辞施・身施・心施・牀坐施(床座施)・房舎施

以上は財産が無くてもできる布施行です。但し実践できるかどうかは心がけ次第です。他者に対して寄り添う心が大切です。

私たちロータリアンもこのことをしっかりと自覚することが大事です。相手に思いを致し、相手が必要としているもの、相手のニーズに応じた奉仕活動を心がけたいものです。そして、自分が幸せになろうとするだけでなく、他者も幸せになれるような方法を探していく、そのような「他者を慮る心」が未来を拓く鍵になるのではないのでしょうか。

人間ばかりではなく、それ以外のものに対しても思いを致すところまでいけば、まさしく菩薩行となります。

菩薩の心、行いが少しでもロータリーに生かされればと願っております。